



令和7年度 可児市立土田小学校
【学校教育目標】たくましく生きる土田の子
あたたかく かしく ねばりづよく

はとぶき

11月号



土田小オリジナル
キャラクター【はとみん】

学びやすさを大切に 指導教諭 曾我部法子

ある日、児童玄関の近くで、保護者と泣いている子どもが立ち止まっている。子どもの表情には、少し不安がにじみ、「帰りたい」と言う。保護者はしゃがんで、子どもの目線に合わせて、そっと話し掛ける「そっか。学校に行きたくない日もあるよね。わかるよ。」と。教室に行こうとは言わず、子どもの気持ちを受け止め、静かに寄り添う。しばらくすると、泣いていた子はふっと表情を変え、教室へと歩き出す。保護者は教室まで送り、片付けの様子を見守りながら、そっと静かにその場を離れる。

みなさんは「特別支援学級」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？この朝のやりとりは特別支援学級の保護者とお子さんとのやりとりです。特別支援学級とは、発達や学習に特性のある子どもたちが、安心して自分らしく学べるように設けられた教室です。少人数での授業や、個々のペースに合わせた支援が行われ、子どもたちは「わかる」「できる」を積み重ねながら、少しずつ自信を育んでいきます。この教室の一番の魅力は、子どもたちの気持ちに寄り添う温かさです。まるで家族のようなぬくもりがあり、先生はもちろん、保護者の方々も一緒になって、子どもたちの小さな成長を見守り、喜び合います。

「今日は自分から挨拶できたね」「苦手だったプリントに挑戦できたね」

そんな一つひとつの出来事が、子どもたちの心を育てる大切な一歩になります。

そして今、通常学級でも特別支援教育の考え方が広がっています。すべての子どもにとっての「学びやすさ」を大切にすることが、これからの教育の基本になります。



○特別支援教育の良さ

1. 安心できる環境でのびのびと過ごせる

子どもにとって「安心できる場所」は、学びの土台です。特別支援学級では、少人数による静かな空間や個別の配慮があることで、落ち着いて過ごすことができます。

2. 「できた！」という成功体験が増える

一人ひとりのペースに合わせた学習で、「わかった」「できた」という喜びを感じやすくなります。これが自信につながり、学習意欲も高まります。

3. 人との関わり方を学べる

少人数での活動や交流の機会を通して、友だちとの関わり方や自分の気持ちの伝え方を学びます。

4. 将来につながる力が育つ

生活の中で必要な力(身の回りのこと、社会性、感情のコントロールなど)を育てることも大切な目的です。将来の自立に向けた支援も行っています。



【支援学級の児童の作品】

特別支援教育はその子に合った学び方を目指しており、とても温かいものです。一人一人の「ちがいを認め合い、支え合う体制づくりを、皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。周りの理解と協力が、子どもたちの成長に大きく影響し、良い環境作りに繋がります。気になることがあればいつでもご相談ください。